

3. 交通大臣会合地図

3.1 地図のコンセプトとデザイン

交通大臣会合地図の基本的な構成要素は、軽井沢周辺の「詳細地図」及び「広域地図（日本の中の位置関係、近隣の駅及び高速道路インターチェンジとの位置関係を示す地図）」並びに「空中写真画像」を配置し、交通大臣会合関係者が地形や環境を理解しやすい地図にした。また、関連情報についても、交通大臣会合であるため、鉄道・高速道路など「交通ネットワーク」を示す地図も配置し、会場となる軽井沢の特徴である「自然・歴史」を強調したデザインとした。

表面：自然を重視したデザイン、空中写真画像とその範囲の地図（写真-3）。

裏面：高速道路と新幹線及び空港を配置した交通ネットワーク図、伊能図を用いた中山道、地域の重要文化財及び名勝などを紹介（写真-4）。

3.2 地図の構成について

3.2.1 仕様

大きさ：A1 判（折り図、仕上がりは A4 判）のカラー両面刷り

言語等：英語

英文による説明のほか、地図に記載する地名・記号等については、平成 28 年 3 月に国土地理院がまとめた「地名等の英語表記規程」に基づいた英語表記ルール及び外国人向けの地図記号を準用した。

内 容：図

- ・中部・近畿・関東の広域図
- ・碓井軽井沢インターチェンジや軽井沢駅を含む詳細地図
- ・会場周辺の詳細地図

空中写真

- ・会場周辺の空中写真画像

資料等

- ・交通に関するネットワーク（写真等を含む）
- ・中山道に関する伊能図と浮世絵
- ・軽井沢町の観光施設等の紹介（写真等を含む）

3.2.2 レイアウト

地図用紙の大きさを A1 判で、折り上がりが A4 判縦置きとすることから、その折り線の位置と各図の区切り位置との整合にもできるだけ留意し、レイアウトをまとめた。

(1) 表面

表面においては、交通大臣会合会場の位置関係を示す要素として、表紙の右側に会場周辺の空中写真画像を配置し、左側には表紙となる上部分に国の重要文化財である旧三笠ホテルの写真、表紙部の下に会場周辺の電子地形図 25000 を配置した。

(2) 裏面

裏面は、右側に関係者の交通手段に使用される碓井軽井沢インターチェンジや軽井沢駅を含めた範囲の標高地形図を配置した。

左側には、日本の中の会場の位置を示すための「500 万分 1 日本とその周辺」の地図の一部を配置するとともに、交通大臣会合であるため、鉄道・高速道路など「交通ネットワーク」を示す図を配置した。また、交通の情報として、特に軽井沢に関連する交通網である上信越自動車道の碓井軽井沢インターチェンジや北陸新幹線についての説明も加えた。

さらに、会場となった軽井沢の「歴史・文化・自然」を重視した情報を発信するため、江戸時代の五街道の一つである中山道を示す伊能図の一部や浮世絵を配置して歴史街道を説明した。加えて、地域の文化・自然として観光名所ともなっている国の重要文化財の旧三笠ホテル、軽井沢ショー記念礼拝堂、白糸の滝を配置した。

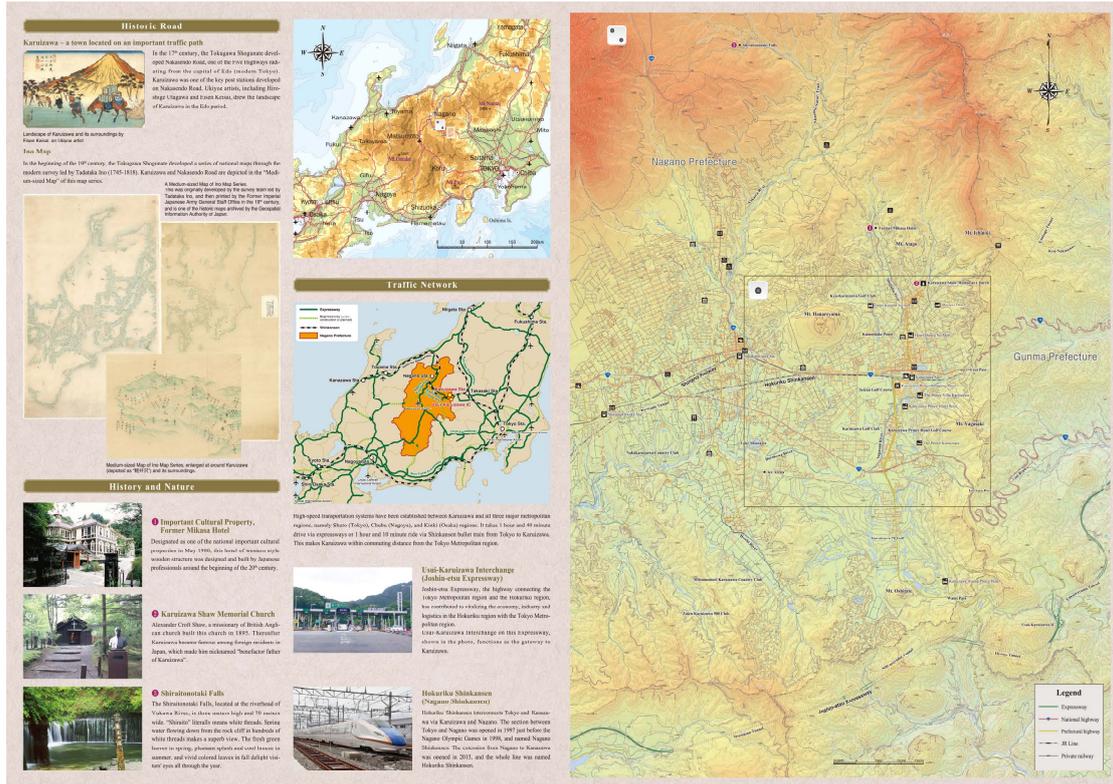


写真-3 交通大臣会合地図 (表)



写真-4 交通大臣会合地図 (裏)

4. まとめ

過去のサミットにおいてもサミット地図を作製したが、今回は伊勢・志摩で開催された全体会合のほか軽井沢で開催された交通大臣会合においても作製することになった。

交通大臣会合での地図作製は今回が初めてであり、地域に関する情報のほかに交通に関する情報を配置するなど工夫したところがあった。

また、地図用紙は、国土地理院発行の「基準点の地図記号」の透かし入り地図専用の用紙を使用したことから、透かしを見つけることに興味を示される方も多くおられた。

サミット地図作製にあたり特に意識したのが、会場周辺の地域の魅力を如何に表現するかであった。

伊勢志摩サミットでは開催に先立ち内閣総理大臣が発せられたメッセージの中から「悠久の歴史を紡いできた伊勢神宮」、「美しい自然がある」、「日本の文化や伝統」、「おもてなし」などのコメントを踏まえてデザインに反映することを心がけた。

地図の利活用については、基本的に両会議に参加する各国首脳、閣僚、代表団及び準備事務局等関係者に利活用いただくために配布したが、会議終了後についても外国人観光客へのパンフレットとしても利活用の価値があることから、会場となった地域の地方公共団体、観光案内所等への配布も行った。

(公開日：平成28年12月28日)